

「自分らしく生きていくことができる社会」には何が必要？

友 達が子どもの夜泣きでつらい時、子育てしている人たちの顔が見えないインターネット上のコミュニティには、夜中や明け方でも誰かしら同じような状況の人がいるので、もう少し頑張ろうと思えると言っていた。自分がここに居ていいんだと思える場所、心を落ち着けられる場所、頑張ろうと思える居場所が必要。家族や友達、対面のコミュニティや顔が見えないコミュニティ、好きなものに囲まれている空間など、今あるものを利用しながら自分の居場所をつくるのが大事。

県 外の大学に進学した友達が、SNSにとっても楽しそうにしている様子を投稿したり、帰って来た時も楽しい話をするので、20代前半まで県外はいいなと思っていた時期があった。しかし、仲の良い友達や家族でもないけどつながっている人がいて、地域に自分のコミュニティや居場所が増えるにつれて、県外に対する気持ちがどんどん薄まり、地元に住んでいて居心地がいいと感じている。

こ の地域は、暮らしにくさを感じる人もいるが、探せばいろんな良いところがあり、この現状を変えるにはどうしたらいいか考えている人たちがいて、このポジティブな面が市民に伝わればより一層いいと感じた。

他 人と比べないことが大事。比べたらきりが無い。自分がこんなにできないのかと考え、自分が苦しくなってしまう。人はそれぞれバックグラウンドが違うし、仕事も違えば、家庭環境も違う。価値観も全然違うため、人と比べず自分も相手に求めないし、期待しない。自分ができるから相手も出来て当たり前ではなく、相手を受け入れる力を身につけ、比べないことが周りに対しての優しさになる。

自 分を認めて欲しいと思った時、自分は相手を認めているか。上の世代からいろいろ言われ、自分は認められていないと思うことがあるかもしれない。相手のことを全部知ることはできないが、その人がどういう人生を生きてきたかを想像してみると、少し関わりやすくなるのでは。

最 近は多様性の時代だからと、今、多様になってきたように言われているが、そもそも多様であって、既にみんなが多様であることに気づいていこうということ。いろんな人がいることが前提になれば、なぜ結婚しないのか、子どもはいないのか、仕事は正社員ではないのかなどのお節介は、その人がどうして今そういう選択肢を選んでいるか、寄り添える姿勢になれると思う。

11月は能代市男女共同参画月間です。

男女共同参画社会の実現には、固定的な役割分担意識の解消が重要です。
また、アンコンシャスバイアスの気づきは、多様性を認め合う社会への第一歩です！

知っていますか？

アンコンシャスバイアス



無意識の思い込みや固定概念と言われ、過去の経験や育った環境などからの影響を受け、自分自身では気付いていない偏ったものの見方や捉え方で、誰にでもあるものと言われています。自分では当たり前と思っていることでも、他の人にとっては当たり前ではないかもしれません。差別や偏見は良くないと思っていても、何気ない行動や発言が相手を傷つけてしまい、生きづらさにつながっている場合があります。

多様性

人は生まれた時の身体的特徴などから「男性」「女性」と性別が決められますが、一人ひとりの性のあり方（セクシュアリティ）は、性を表す4つの要素から表現され、一人ひとり違った性のあり方が存在します。

- からだの性（生物学的性）／身体的な特徴により判断される性別を示します。
- 好きになる性（性的指向）／異性を好きになる人もいれば、同性を好きになる人もいます。また、男性か女性かを問わず好きになる人もいれば、どちらに対しても恋愛感情をあまり抱かない人もいます。
- こころの性（性自認）／自分が自分の性別をどのように認識しているのかを示します。出生時に決められた性別が違っていると感じて、自分らしいと感じる性別を選択する人もいます。
- 表現する性（性表現）／服装や言葉遣いなどを自分自身がどのように表現したいのかを示します。からだの性・こころの性と表現する性が同じとは限りません。

能代市男女共同参画推進講座

「もしも…の時の防災講座」を開催します

災害を乗り越えるための日頃の備えや、自助・共助、多様性に配慮した対応の必要性を学びます。参加費無料。

日時 11月9日(土)

午後1時30分～4時

場所 本庁舎大会議室

定員 35人程度

内容 ○講師 防災士 齊藤亜希さん

(Primes株式会社 代表取締役)

・講演「今こそ備えよう！みんなが主役の避難所運営～初めの一歩～」

・避難所運営訓練ゲームHUG

○講師 総合防災課職員

・市の備蓄品と家庭での備えについて

・段ボールベッドやパーティションを組み立てよう

申し込み 電話かメール (katsuryoku@city.noshiro.lg.jp)
で11月1日(金)まで

問合せ 市民活力推進課 Tel.89-2212

※託児あり（未就学児5人まで・要事前申し込み）



市ホームページ





若者井戸端会議



能代市男女共同参画事業として「若者井戸端会議」を開催しました。市内在住の男女5人が参加し、この地域ならではの世代間ギャップや固定概念、多様性への理解などについて、自由に意見交換を行いましたので、その内容を紹介します。この機会に「自分らしく生きていくことができる社会」について一緒に考えてみませんか。

性別は何を区別しているのか

性 別を決める要素は何か、なぜそこを性別で分ける必要があるのかと感ずることがある。違う性別とされている人と親しくなると、自然に恋愛を前提とするのかどうかを一度突き付けられ、自分も周りも変に気を配ったり、親しくするとそう思われるのかなと考えることに疲れたりする。また、職場で女性だけに制服があり、男性は帰る時ロッカーから荷物を持ったらずぐ帰れるが、女性は着替えなければいけない。そもそもどうして女性だけ制服があるのか疑問で毎日が苦痛。

女 性は化粧をしなければいけないという固定概念が嫌い。制服もスラックスを選べるようになってきたが、多様性を認める土台を大人が作らないと子ども達が戸惑うことになるのでは。男性で化粧をしたい人もいる。男のくせに化粧をしてとか、家事・育児は女がするべきとか、男だから女だからというのが、一生つきまとうのかなと思ってしまう。

人への許容力と人との距離感

若 い人たちが自分らしく生きていくことができる社会を考えた時に、地方は失敗に対する許容度が低い気がする。他人に対してだけでなく、自分に対してもそのように感じる。今、若い人がどんどん転職するが、転職したい気持ちがあるのに、なかなか踏み切れないのは、自分が失敗することが許せない、失敗したくないみたいな気持ちがあり、周りから失敗したと見られるのが嫌で、他人にもそういうマインドで見ているのではと思う。若い人たちの意見や、やりたいことを否定しないことが大事。

田 舎は人との距離が近いところが、良いところでもあり悪いところでもあると思う。若い人の中には、自分のことに踏み込まれるのが嫌な人もいる。まずは、会ったらあいさつや話をするなど信頼関係を少しずつ築いたうえで、仲良くなったと思ってから踏み込んだ質問をすることが、他世代交流で大事なことと思う。

お 節介で、早く結婚しろとか、男がどうとか、女がどうとか言われることを、聞き流す選択肢もある。それを問題提起することも大事だが、受け取り過ぎず、自分には関係ないとスルーするスキルも大事。

若者がイキイキ輝くには？

市 民自身が能代に対してネガティブな印象を持ちすぎている、それが能代で暮らす生きづらさにつながっていると感じている。

地 元岩手県で東日本大震災を経験。祭りは絶やしたら終わってしまうということで、震災の年もがれきの中を練り歩き、祭りは今でも続いている。祭りのために1年に1回は絶対に地元に戻って来ることがみんなの生きがいになっている。新聞でこども七夕の来年度の運行が難しい状況を知り、今まで子どもたちが楽しみにしてきたことが、いわゆる大人の都合で続けられなくなり、当たり前にあったものがなくなってしまうのは、子どもの経験に大きなギャップとなる。無くなるから仕方ないで終わらせないで、何かできる規模でやってみようとなげていけるといい。

田 舎でやることがない、楽しみがないという人がいるが、楽しいことを探せばいくらでもあるのではないかなと思う。無いものはいくらでもあり、田舎は都会に比べると選択肢の量は圧倒的に少ないと思う一方で、一概に田舎にあるものが都会にも必ずあるかといったらそうでもないと思う。趣味がたくさんあり、自分が所属するコミュニティが、職場や家族以外のいろんなところにある。仕事で失敗した時、居場所を変えることによって気持ちをリセットしている。活動したい人たちは、みんなで盛り上げたい人が多く、参加したい人を歓迎してくれる雰囲気がある。

大 学進学を機に関東に出た時は、もう帰って来ることはないだろうと思っていた。一度実家に帰ろうと思い、仕事を探していると、あまりにも選べるものがなさすぎた。この状態の地元を何も選ぶものがないからといって、また都市に行くとなると、自分の帰って来る場所がなくなるのではないかと思った。そこで、この地域で何かできないか、逆に帰って来られる場所を作らなければと思い、今いる人がどうすれば居心地が良くなるのか、地元に残って何かできないか考えている。

東 京の結婚式場でパティシエをしていて、能代に戻って引き続きやりたかったが、そもそも求人で働きたい場所がなく、秋田市の結婚式場でパティシエを続けた。能代に戻ると考えていた時、たまたま知り合った縁で、能代のマルシェに出店する機会があり、そこで友達や家族以外の知り合いが増え、居場所ができた感覚ができた。そこから能代にお店を持つのもいいかなと思い始め、能代を好きで盛り上げようとしている仲間がいる環境がある今なら帰って来てもいいかなと思い、今この地域で活動している。産休や育休の友達で、能代に居て何をしたらいいかわからない人が多い。そのような人達にも届くような情報発信をしていきたい。

「自分らしく生きていくことができる社会」について日頃感じていること